

- 1 日時・場所 平成19年10月〇日(〇) 美術室
- 2 学年・学級 1年〇組
- 3 題材名 「スケッチを楽しもう ～生き生きとした自分をスケッチしよう～」
- 4 題材について

○ 題材観

現在の生徒は、幼少年時代からテレビゲームやパソコン等に親しんでいる影響で、自らの手で絵を描く機会が減少していると思われる。そこで、今回は自然や人物、身近にあるものなどを観察し、その形や色の特徴や印象を大切にスケッチする題材を設定することにした。

スケッチは、物の形や色を正確に描写する意味でのデッサンに比べ、対象の特徴をよく観察し、発見したことや感じた印象を短時間でいきいきと表現できるものである。

本題材では、短時間での取り組みを継続して行ったり、サイズの小さいスケッチを繰り返し描く活動を行ったり、形や立体感などの表し方の様々なコツを教えたりしてスケッチの技能を身につけることができる。また、この時期にスケッチによる自画像に取り組むことを通して、自分の内面からものを見つめる目と、対象をじっくり観察する目で、「自然や身近なもののよさや美しさ」を感じ取り、スケッチの表現の楽しさを味わえる題材である。

○ 生徒観

1学年、前期の「本の紹介ポスター」では、自分のお勧めの本を紹介するポスター制作を意欲的に取り組んできた。発想、構想は自分の表現をよりよいものにしようと創意工夫する生徒もみられたが、アイデアが浮かばず悩む生徒が見られた。技能面では、線描や色彩などの基礎的な知識を必要とする生徒が多い。また校内に展示されている生徒作品を鑑賞する時、親しみをもって友達のよさに気づこうとする姿が見られた。本学年の生徒は小学校6年生の図画工作科で自画像(12歳のわたし)など、自分を見つめるテーマの表現活動を行っている。

○ 指導観

指導にあたっては楽しみながらスケッチし、基礎的な技能が身に付くよう、毎時間、授業の導入で「スケッチ貯金箱」(3分間ミニスケッチ)を継続して行うようにする。この活動では、生徒がサイズの小さなスケッチをすることにより、抵抗なく気軽に取り組めるようにする。このことが「静かに集中する空間」をつくり、授業への取りかかりを良くすると思われる。

また、形や立体感の表し方として、明暗や全体の構図などについて指導を行い、発想・構想においてつまづいている生徒に対しては、資料集や掲示物の作品を見せて助言する。さらに、技能面では線の強弱に意識を向け、そこでつまづいている生徒には、材料や用具の扱い方になれさせるとともに、線の強弱などの個別指導も行う、

そして指導と評価の一体化を図るため、ワークシートを活用し、本字の目標についての自己評価をさせ、次時への支援の手がかりとし、生徒のつまづきを改善できるようにする。同時にワークシートに、友達の作品に対する肯定的なメッセージ(頑張っている点など)を文章表現することで、他者を尊重する心を育てるようにしたい。

5 題材の目標

- 対象を深く見つめ、形や色彩の特徴や美しさなどをとらえ、楽しんでスケッチしようとする。
- 形の表し方、描画材料の特徴などを理解し、対象のよさや美しさを感じ取りスケッチする。

6 題材の評価規準

	1, 関心・意欲・態度	2, 発想・構想の能力	3, 創造的な技能	4, 鑑賞の能力
題材の評価規準	身近なものを深く観察し、そのよさや美しさを楽しくスケッチしようとする。	対象を深く観察し、よさや美しさを感じ取り、形や色、構図など全体の構想を練る。	形の表し方、描画材料の生かし方を身につけ、対象の形や色などの特徴を工夫して表現する。	感性や想像力を働かせ、友達作品や自分の作品からよいところを見つける。
学習活動における評価規準	①主体的に描画材料を選び楽しくスケッチしようとする。 ②身近なものを深く観察し、よさや美しさを発見しようとする。	①バランスを考えた構図にする。 ②対象のよさや美しさを感じ取り、形や色の特徴を捉えて、創意・工夫する。	①対象の形や色の特徴をとらえスケッチする。 ②描画材料の特徴を生かし、線の強弱や明暗などを工夫して表現する。	①友達作品を見ていろいろな見方や感じ方に共感する。 ②友達や自分の作品の良いところを積極的に探し文章表現する。

7 指導計画

時間	学習活動	評価の規準・評価方法
毎時間(3分)	授業開始時に、ミニスケッチ(スケッチ貯金箱)をする。	3-①・作品
第一次(2H)	画家のスケッチを模写する(鉛筆、ペン、割り箸)	2-①・制作の様子
第二次(1H)	手のスケッチを描く(パステルと筆)・・・線の強弱を意識して	1-② 3-② ・制作の様子
第三次(1H)	自画像スケッチを描く(パステルと筆)・・・明暗を意識して	3-①, 2-② ・作品
第四次(本時1H)	自画像スケッチを色画用紙に描く(自由に描画材料を選んで)	1-① 2-② ・作品

8 本時の目標

- 主体的に描画材料を選び、楽しくスケッチしようとする。
- 対象のよさや美しさを感じ取り、形や色の特徴をとらえて創意工夫する。

9 本時の準備物

(生徒) デザインセット、教科書、美術資料、筆記用具

(指導者) 色画用紙、デザインセット、自画像用鏡、筆洗バケツ、ワークシート、割り箸、墨汁、パステル、前回の生徒作品の掲示(パネル)、スケッチに関する拡大コピーの掲示

10 本時の指導過程 (●…努力を要する生徒の支援, ○…全体に関わる支援)

学習内容・学習活動	教師の支援	評価の規準, 評価方法
本時の目標 (板書) ・自分の内面にも目を向け, 自分の表現にあった描画材料を工夫して使いスケッチしよう		
導入 (10分)	1 前回の学習内容を振り返ると同時に友達作品の良さを再確認する。 2 ワークシートを配布し, 本時の目標を確認する。 3 教師のスケッチする様子を見る。	○ いくつか作品を前に掲示しておく ● 生徒作品のそれぞれの良さを前回書いたワークシートから紹介し, 苦手意識をなくすように努める。 ○ 生徒作品の自画像を示し, 自分を見つめると同時に, いろいろな表現方法を確認させる。 ○ ワークシートにはモチベーションを高めるためにも前回のコメントを書いておく。 ○ 教師が自ら鏡を見て自画像を画用紙にスケッチすることで生徒の意欲を高める。
展開 (30分)	4 自画像スケッチに取り組む。	● 机間指導の際, 前回のワークシートなどに理解が不十分と感じられる生徒を中心に, 画家のスケッチや生徒作品を見せたりして様々な表現があることを気づかせる。 ● 制作が停滞してきた生徒には, 他の制作中の生徒作品を参考に見せる。 ○ ゆっくり観察して自分の外見だけでなく自分らしさを発見するように助言する。 ● 描画材料を生かし切れていない生徒には教師が机間指導の際に画用紙に描いてみせる。
まとめ (10分)	5 班隊形で鑑賞し, ワークシートに記入する。 6 片づけを行う。	1-① 2-② 机間指導 ● ワークシートで自分たちの活動を振り返らせるとともに, どの作品にも良さがあることに気づかせ自信をもたせる。 ○ 目標であるスケッチのよさや美しさを感じ取り, 描画材料の特徴を生かし工夫できたかを確認させる。